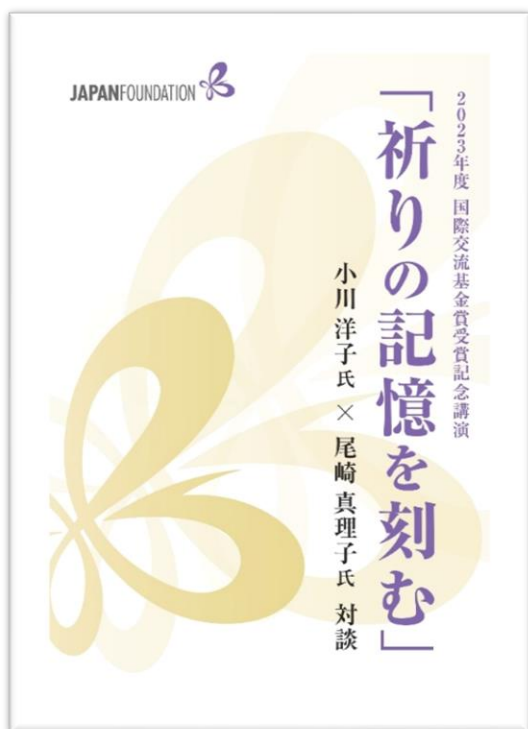


小川洋子氏（小説家）の対談を収めた冊子の発行決定 ～2023 年度「国際交流基金賞」受賞記念講演会で語られた思いを届けます～

国際交流基金（JF）は、小川洋子氏（小説家）が 2023 年度「国際交流基金賞」を受賞した際に開催した受賞記念講演会の記念冊子を発行いたします。本冊子には、講演会の全編を収録します。

小川氏の作品は、端正な日本語で書かれ、多くの言語に翻訳され、言葉や国境の壁を越えて世界中で親しまれています。その注目の高さや、講演会で受賞者本人から語られた小説への思いの共有を求める声を受け、冊子の発行を決定しました。

「国際交流基金賞」は、JF 設立翌年の 1973 年から実施されている顕彰事業です。学術、芸術その他の文化活動を通じて、国際相互理解の増進や国際友好親善の促進に特に顕著な貢献があり、引き続き活動が期待される個人又は団体を顕彰しています。小川氏が受賞した 2023 年度に、50 回目の節目を迎えました。



記

タイトル：『祈りの記憶を刻む』小川洋子氏 × 尾崎真理子氏 対談

発行：独立行政法人国際交流基金（JF）

発行日：2024 年 8 月 30 日（金）

寄贈先：全国の主要な公立図書館、大学を含む教育機関等（9 月上旬以降、順次配布予定）

内容：

2023 年 11 月 14 日に、2023 年度国際交流基金賞受賞記念イベントとして実施した「小川洋子氏・尾崎真理子氏 対談『祈りの記憶を刻む』」を載録。

この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 広報部（担当：熊倉、小堤）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

E-mail: press@jpf.go.jp

対談の演題（「祈りの記憶を刻む」）には、「言葉を残さぬままこの世を去った、死者自身の記憶を物語にして現世に刻む」という意味と、「生きている者に残る死者の記憶を言葉にすることで、その死を刻む」という意味が、二重に含まれています。

「小説を書いたり読んだりする行為は、死と生を行き来すること」

こう語る作者の思いや実感を、『博士の愛した数式』や『密やかな結晶』など、海外でも広く浸透してきたいくつかの長編作品を取り上げながら、紐解きます。

講演会登壇者：

小説家 小川 洋子 氏（2023 年度「国際交流基金賞」受賞）

小川洋子氏は、1988 年のデビュー以来、35 年にわたって小説の創作に打ち込み、すぐれた長編、短編を次々に生み出してきました。これまでに、芥川賞、読売文学賞、谷崎潤一郎賞、野間文芸賞などを受賞しています。端正な日本語で書かれた小川氏の小説は、他言語へ翻訳する人々の想像力を喚起してやまず、2023 年半ばまでに翻訳された作品は 36 にのぼり、合わせて 37 言語に訳されました。小川作品は世界各地で読者の共感を呼び、文学や日本語を通じた国際相互理解の推進に大きく貢献しています。



文芸評論家 尾崎 真理子 氏

読売新聞東京本社において、編集委員・文化部長を歴任したのち、早稲田大学文学学術院教授を務めました。2016 年度日本記者クラブ賞を受賞、著書『ひみつの王国評伝石井桃子』（2013 年、新潮社）では芸術選奨文部科学大臣賞と新田次郎文学賞を、『大江健三郎の「義」』（2022 年、講談社）では読売文学賞を受賞しています。



以上

この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 広報部（担当：熊倉、小堤）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

E-mail: press@jpf.go.jp